

2020年度

名古屋大学大学院環境学研究科
入学（進学）試験受験案内
（第Ⅱ期募集）

本冊子は、「2020年度名古屋大学大学院環境学研究科博士前期課程及び博士後期課程学生募集要項（第Ⅱ期募集）」の説明内容を補うものです。

研究科・専攻・分野等の概要、関係教員の連絡先、受験に際しての各専攻ごとの注意事項等が記載されています。

受験を希望する者は、必要な部分を熟読のうえ、出願の手続き等を行ってください。

名古屋大学大学院
環境学研究科

名古屋大学大学院環境学研究科について

○名古屋大学大学院環境学研究科について

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/aboutus/index.html>

○専攻の概要

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/index.html>

○学 位

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/aboutus/gakui.html>

○教 員 一 覧

<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/faculty/index.html>

※教員の居室，試験会場等の建物の場所については，

<http://www.nagoya-u.ac.jp/access-map/index.html>

をご参照下さい。

受験に際しての注意事項等

地球環境科学専攻

1. 試験場と集合時刻

1.1 博士前期課程

一般選抜、留学生特別選抜及び社会人特別選抜入試

2020年2月12日（水） 8：45より 英語スコアシートの提出

9：15より 口述試験（※留学生特別選抜のみ、口述試験に加えて英語面接を実施する）

集合場所：環境総合館3階311号室（演習室2）地球惑星科学系の志願者

環境総合館3階315号室（演習室3）大気水圏科学系の志願者

集合時刻：「英語スコアシートの提出」開始10分前

口述試験の内容：卒業研究の内容や志望分野での研究計画の概要などについて5分間の発表を課す。その後、発表内容等について口頭試問を行う。なお、発表には白板とPCプロジェクターを使用できる。Microsoft Power Point 2016以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

*口述試験は遅刻を認めない。

1.2 博士後期課程

一般選抜、留学生特別選抜及び社会人特別選抜入試

【地球惑星科学系】地球惑星科学系（地球環境システム学、地質・地球生物学、地球化学、地球惑星物理学、地球惑星ダイナミクス、地球史学、生態学）の志願者

2020年2月12日（水） 13：00より 口述試験

集合場所：環境総合館3階311号室（演習室2）

集合時刻：試験開始10分前

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻地球惑星科学系からの進学志願者には、修士学位論文などの研究内容及び進学後の研究計画について約15分の口頭試問を行う。上記以外からの志願者には、修士学位論文などの研究内容と入学後の研究計画について15分の発表を課す。その後、専門に関する能力と語学力（英語）について、約15分の口頭試問を行う。なお、発表にはPCプロジェクターと白板を使用できる。また、Microsoft Power Point 2016以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

【大気水圏科学系】大気水圏科学系（地球環境変動論、気候科学、物質循環科学、地球水循環科学）の志願者

2020年2月12日（水） 13：00より 口述試験

集合場所：環境総合館3階315号室（演習室3）

集合時刻：試験開始10分前

口述試験の内容：名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻大気水圏科学系からの進学志願

者には、研究計画を中心とした内容についての10分の発表を課す。上記以外からの志願者には、修士論文等（20分以内）と研究計画の内容（10分以内）について合わせて30分以内の発表を課す。その後、発表内容について、質疑応答を行う。なお、発表にはPCプロジェクターと白板を使用できる。また、Microsoft Power Point 2016以降をインストールしたパソコン（OS: Windows）が用意されている。

*口述試験は遅刻を認めない。

2. 英語外部検定試験を利用した試験科目「英語」の実施要領について

2.1 試験の方法

今回の試験で有効とする検定試験の種別、ならびに受験日については、募集要項「5.2 試験当日に提出する書類」を参照すること。

2.2 スコアシートの提出方法

- (a) 試験当日の「英語スコアシート原本の提出」の際にスコアシートの原本を持参していない場合、試験科目「英語」の点数が零点となるので、十分に注意すること。
- (b) 入試までの間に開催される TOEFL/TOEIC/IELTS の試験の回数は限られているので、これから TOEFL/TOEIC/IELTS を受験する者は試験開催日程に注意すること。

2.3 換算方法

- (a) 下記の換算表は、今回の試験における IELTS, TOEFL (iBT), TOEIC の間の換算の目安を示している。
- (b) 下記の換算表は、地球環境科学専攻の今回の試験のみに適用されるものとする。

参考換算表（2020年2月実施用）

IELTS	TOEFL-iBT	TOEIC
7.5～	109～	960～
7	100～108	870～960
6.5	90～99	800～870
6	80～89	730～800
5.5	69～79	650～730
5	61～68	580～650
4.5	52～60	500～580
4	45～51	440～500
3.5	33～44	310～440
3	29～32	270～310

2.4 TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細

下記のホームページを参照するか、または試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

TOEIC: <http://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

3. 出願に際して

3.1 志望分野

博士前期課程の出願者は、志望する教員もしくは分野を第2志望まで選ぶことができる。 志願者は受験案内やホームページなどを参考にし、教員の研究内容等を熟慮した上で志望先を決めること。なお、2019年8月実施の第I期募集において、指導可能な人数の上限に達した教員もいるため、必ず事前に希望指導教員へ連絡を取り、可能な限り研究室を訪問すること。

3.2 2020年度地球環境科学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別表1 ファイルを参照のこと。

都市環境学専攻

1. 都市環境学専攻の履修コース、問題選択および指導教員について

都市環境学専攻では、持続発展学コース、建築学コースの2つの履修コースを設けている。履修コースごとに取得できる学位の分野が異なり、それぞれ修了要件が定められている。

学力検査は履修コースごとに実施し、日程、内容ともに異なる。また、併願はできない。したがって、履修コースと希望する指導教員をあらかじめ選択の上、受験する必要があるので注意すること。なお、今回の第Ⅱ期入学試験では、建築学コースの博士前期課程の募集は行わないので留意すること。

各履修コースの教員名および教育研究内容を別表1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 指導教員および教育研究内容の一覧」に示すので、受験に際しての参考にすること。なお、一部の教員は複数のコースに関わる教育研究分野を担当しているため、これらについては該当するコースに重複して記載している。

持続発展学コースの志願者は、「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を志願することができる。同プログラムについては別紙1を参照すること。

2. 博士前期課程の案内

2.1 持続発展学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

年月日	時間	一般選抜	留学生特別選抜	社会人特別選抜	試験場
2020年 1月31日（金）	9：30－11：30	筆記試験 （専門科目）	筆記試験 （専門科目）	口述試験	筆記試験は環境総合館3階講義室1、口述試験は別途指示する
	13：00－14：00	筆記試験 （小論文）	筆記試験 （小論文）		同上
	16：30－	面接	面接	面接	別途指示する

(2) 受験に際しての注意事項

- 出題範囲などについては、別表2「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）2020年度博士前期課程入学試験（第Ⅱ期）学力検査出題範囲」を参照すること。
- 一般選抜及び留学生特別選抜を受験しようとする者は、筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合、専門科目の試験開始60分後、小論文の試験開始30分後までの入室を認める。
- 試験に際しては、黒鉛筆（シャープペンシル）・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはいけない。辞書等（電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む）は使用できない。なお、電卓に関しては、試験に必要な場合のみ大学側で準備する。
- 社会人特別選抜受験者は、あらかじめ希望指導教員と連絡をとり、口述試験に関して打ち合わせを行うこと。なお、口述試験の開始予定時刻・場所については、希望指導教員からあらかじめ

め連絡する。

(3) 面接

持続発展学コースの全教員による面接である。集合時刻、開始予定時刻、面接場所、控室などについては、最初に実施する試験科目の際に配布する資料を参照すること。

(4) 英語外部検定試験（TOEFL/TOEIC/IELTS）を利用した試験科目「英語」の実施要領について

1. 試験の方法

- (a) 試験科目「英語」における TOEFL/TOEIC/IELTS スコアの換算による採点は、前期課程／後期課程、一般選抜／留学生特別選抜／社会人特別選抜のいずれの試験でも実施する。
- (b) 今回の試験で有効とする外部検定試験の種別、ならびに受験年月日については、募集要項「5.2 試験当日に提出する書類」を参照すること。

2. スコアシートの提出方法

- (a) TOEFL/TOEIC/IELTS スコアシートは、その原本を最初に実施する試験科目の際に提出を求める。
- (b) 入試までの間に開催される TOEFL/TOEIC/IELTS の試験は、その回数が限られている。これから TOEFL/TOEIC/IELTS を受験する者は試験開催日程に注意すること。
- (c) TOEFL/TOEIC/IELTS に関する詳細は下記のホームページを参照するか、各試験の実施機関に問い合わせること。

TOEFL: <http://www.cieej.or.jp/toefl/index.html>

TOEIC: <http://www.iibc-global.org/toeic.html>

IELTS: <http://www.eiken.or.jp/ielts/index.html>

3. 換算方法

- (a) TOEFL (iBT) からの換算は、上限300点および下限0点として以下の式を用いる。
$$\text{TOEFL (iBT) スコア} \times 4.38 - 125 = \text{換算点}$$
- (b) TOEIC からの換算は、上限300点および下限0点として以下の式を用いる。
$$\text{TOEIC スコア} \times 0.522 - 156 = \text{換算点}$$
- (c) IELTS からの換算は、一般的に用いられる換算表に基づいて TOEFL (iBT) に換算（幅で示されている換算点数の中間値を用いる）した後 (a) の方法を適用する。
- (d) 以上の換算方法は、今回の試験のみ適用されるものとする。

(5) 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが、持続発展学コースには、第Ⅰ期入学試験における入学見込み者を含み、約33名まで入学が可能である。

(6) 過去の入試問題の公表

過去の入試問題については、下記で入手可能である。

都市環境学専攻 持続発展学ホームページ

<http://www.urban.env.nagoya-u.ac.jp/Jindex.html>

2.2 建築学コース

今回の第Ⅱ期入学試験では、建築学コースの博士前期課程の募集は行わない。

3. 博士後期課程の案内

3.1 持続発展学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

年月日	時間	一般選抜	留学生特別選抜	社会人特別選抜	試験場
2020年 1月31日(金)	9:30-11:30	筆記試験 (専門科目)	筆記試験 (専門科目)	口述試験	筆記試験は環境総合館3階講義室1, 口述試験は別途指示する
	13:00-15:00	口述試験	口述試験		同上
	16:30-	面接	面接	面接	別途指示する

(2) 受験に際しての注意事項

- ・受験者は、別表1「名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻 指導教員および教育研究内容の一覧」を参照の上、記載されている持続発展学コースの教員から指導を希望する教員を1名選び、その氏名を受験票および写真票の「指導教員名」欄に記入すること。
- ・筆記試験(専門科目)[一般選抜, 留学生特別選抜]の試験科目(3分野)設定のため、出願前に希望指導教員に必ず連絡をとり、受験の内諾を得ること。
- ・一般選抜および留学生特別選抜を受験しようとする者は、筆記試験会場に試験開始の30分前までに入室すること。遅刻の場合、試験開始60分後までの入室を認める。
- ・試験に際しては、黒鉛筆(シャープペンシル)・消しゴム・鉛筆削り・時計以外を使用してはいけない。辞書等(電卓あるいは辞書機能付き携帯電話・時計等も含む)は使用できない。電卓に関しては、試験に必要な場合のみ大学側で準備する。

(3) 英語外部検定試験(TOEFL/TOEIC/IELTS)を利用した試験科目「英語」の実施要領について「2. 博士前期課程の案内 2.1 持続発展学コース」の(4)と同一であるので、同項目を参照すること。

(4) 口述試験・面接

- ・集合時刻、開始予定時刻、試験会場、面接場所、控室などについては、最初に実施する試験科目の際に配布する資料を参照すること。なお、社会人特別選抜を受験する者に対しては、希望指導教員からあらかじめ連絡する。

3.2 建築学コース

(1) 試験のスケジュールと試験場

募集要項に記載のとおり。

(2) 試験内容について

志願者は希望指導教員にあらかじめ連絡を取り、受験科目について指示を受けること。

1) 筆記試験（英語）[一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜]

辞書およびこれに類するものの使用は認めない。

2) 筆記試験（専門科目）[一般選抜，留学生特別選抜のみ]

志望する専門分野の筆記試験である。

3) 口述試験 [一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜]

希望する指導教員を中心とする建築学コースの教員により，これまでの研究内容および後期課程での研究計画に関連する事項について試問するとともに，専門に関する能力について口述による試験を行う。

4) 面接 [一般選抜，留学生特別選抜，社会人特別選抜]

建築学コースの全教員により，志望の動機，これまでの研究内容および入学後の学習等に関連する事項を試問する。説明内容をまとめた資料の用意や説明方法などについては，指導希望指導教員と事前に相談しておくこと。

(3) 入学定員

都市環境学専攻の募集人員は「学生募集要項」の記載のとおりであるが，建築学コースには約10名まで入学が可能である。

3.4 2020年度都市環境学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別表1 ファイルを参照のこと。

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻（持続発展学コース）

2020年度 博士前期課程入学試験（第Ⅱ期）学力検查出題範囲

科目名	分野等	解答形式	主 な 出 題 範 囲
英語	英語	TOEFL, TOEIC または IELTS のスコアを提出する。	提出されたスコアにより成績を判定する。
専門科目	環境工学・環境政策	環境工学・環境政策から3問, 環境化学から2問, システム学から1問, 構造工学から2問, 計画学から2問の合計10問が出題されるので, 3問を選択し解答する(1分野のみから選択してもよい)。	環境と経済, 交通と環境, 環境リスク, 費用便益分析, 環境管理システムなどに関する基礎的知識を問う問題, 国土環境保全, 資源・エネルギーの利用と再生, 大気汚染・水質汚濁の防止, 環境影響評価などに関する技術の実際と応用に関する知識を問う問題。
	環境化学		資源・エネルギーの化学, 物質の製造・廃棄・循環利用(グリーンケミストリー), 大気・水・土壌の物質汚染, 地球温暖化, 酸性雨・海洋酸性化など, 環境に関わる物質化学の知識を問う。
	システム学		システムの解析, 設計, 制御, 運用, 評価等に関する基礎的知識を問う。
	構造工学		材料の応力とひずみ, 骨組構造解析, 耐風・耐震設計, 鋼構造, コンクリート構造, 骨組設計など。
	計画学		土木計画における統計的・数理計画的手法, 費用便益分析, 地域計画, 都市計画, 土地利用計画, 交通工学などに関する問題。
小論文	小論文	1問が出題される。	社会・経済および環境問題などに関する小論文で, 主としてその論理性を問う。

※持続発展学コースの試験は文系を含めた幅広い分野の出身者が受験できるように配慮されています。

2020年度 環境学研究科都市環境学専攻持続発展学コース博士前期課程・博士後期課程

「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」の案内

名古屋大学大学院環境学研究科都市環境学専攻では、工学研究科土木工学専攻と協力して、「名古屋大学国際環境人材育成プログラム」を実施している。本プログラムは、アジア・アフリカ諸国が直面する様々な環境問題の解決を担う次世代の環境リーダーの育成を目的とするものである。

下記の説明および資料を参照の上、参加を希望する場合には、必要な手続きをとること。

対象学生

博士課程（前期・後期）に入学する留学生および日本人学生。

プログラムの概要 ※詳細については、ホームページ (<http://www.civil.nagoya-u.ac.jp/nugelp/index.html>) を参照のこと。

- 地球環境問題や持続可能な開発問題を対象に、事象の理解、対策技術の理解・修得、制度設計・政策運営の能力獲得のための教育を実施する。講義等は英語で行う。
- グローバル研究インターンシップを必修科目とする。
- 留学生と日本人が相互に啓発しあいながら共に学び、国際的コミュニケーション能力を向上させる。
- 博士後期課程の学生は「統合環境学特別コース」に準じたカリキュラムで専門的かつグローバルな視野を培う。
- プログラム所定の学業を修めた学生には、修士学位或いは博士学位に加えて、プログラム修了認定証を授与する。

参加希望から選考、参加までの流れ

- ① 入学志願票のプログラム参加希望に関する欄に、参加希望である旨記入すること。（該当箇所に回答がない場合には、選考の対象にならないので注意すること）
- ② 入試合否発表後、参加希望者のうち合格者を対象に面接を実施する。入試成績、英語能力、意欲などを総合的に評価して、プログラム学生を選考する。
- ③ プログラムから選考結果を通知する。
- ④ 入学時に、ガイダンスを実施する。

※選考案内を含むプログラムからの連絡は、基本的にメールで行う。参加希望の受験者は必ず、入学志願票に確実に受信できるメールアドレスを記載すること。特に入試合否発表前後は、定期的にメールを確認すること。

注意事項

- プログラムの博士前期課程に所属する学生は、プログラム指定科目（指導教員によるセミナー科目 8 単位およびグローバル研究インターンシップ 2 単位を含む計 22 単位）を履修することが求められる（学位取得に必要な単位としてカウント可能）。
- プログラムの博士後期課程に所属する学生は、プログラム指定の後期課程の授業科目から、基礎環境学講究 1 と臨床環境学研修 1 を含む 10 単位以上を履修することが求められる。
- プログラム学生は通常の学生と同様に、都市環境学専攻持続発展学コースの教員の中から、自分の専門や興味にあわせて指導教員を自由に希望することができ、それぞれの研究室に所属して専門分野について学びながら、プログラム履修を進める。プログラム参加については、事前に希望指導教員に相談し、承諾を得ること。
- プログラムが提供する科目は一部を除いて開放されている。したがって、プログラム参加学生以外の一般学生も受講可能である。

問い合わせ先：名古屋大学国際環境人材育成プログラム（NUGELP）

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 D2-2 名古屋大学環境総合館223号室

E-mail: envleaders@urban.env.nagoya-u.ac.jp

社会環境学専攻

1. 社会環境学専攻の分野、出願に当たっての注意

社会環境学専攻は、それぞれカリキュラムの異なる5講座によって構成されています。学生は、それらの各講座のいずれかに所属し、指導教員の指導の下で修士論文または博士論文を作成することになります。所定単位を履修し、修士論文ないし博士論文の試験に合格すると、修士または博士の学位を取得できます。社会環境学専攻で取得できる修士ないし博士の種類は環境学・経済学・法学・社会学・地理学のいずれかで、それぞれ単位取得の要件が異なります。各講座の説明については、社会環境学専攻のホームページをご覧ください。

(<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/dept/society.html>)

また、過去の入試問題は、環境学研究科のホームページの「入試」をご参照ください。

(<http://www.env.nagoya-u.ac.jp/admission/index.html>)

入学試験では、環境政策論、経済環境論、環境法政論、社会学、地理学の5つの分野で学生を募集します。各分野は各講座にそれぞれ対応します。社会環境学専攻の受験にあたっては、それらから志望する分野を1つ選ばなければなりません。または同じ分野内から、希望指導教員名を1人もしくは2人選んでください。(ただし、指導教員については、必ずしも受験者の希望がそのまま通るものではありません。)

入学後、指導教員とよく相談して学修・研究計画を立てる必要がありますので、どの分野を志望するか、どの教員の指導を希望するかということについて、受験前によく検討しておくことが必要です。なお各教員の教育研究内容を別表1に掲げておきますので、検討の際に参考にしてください。とくに指導を希望する教員が決まっている場合、あるいは教育研究内容について質問がある場合は、受験前に、各教員まで遠慮なく連絡してください。

○2020年度社会環境学専攻指導教員および教育研究内容の一覧

○別表1 ファイルを参照のこと。

2. 前期課程の入学試験について

社会環境学専攻の前期課程の入学試験は、筆記試験と口述試験とから構成され、筆記試験には専門科目Ⅰと専門科目Ⅱとがあります。一般選抜(普通入試)と留学生特別選抜の受験生は、これらのすべての試験を受験しなければなりません。社会人特別選抜については、筆記試験(専門科目Ⅰ)と口述試験とが課されます。また、一般選抜(自己推薦入試)については、口述試験が課されます。

筆記試験では、専門科目Ⅰと専門科目Ⅱの双方とも、それぞれ入学志望分野の出題に解答しなければいけません。試験時間、各分野の出題範囲、その他の注意事項などについては、学生募集要項をご覧ください。なお口述試験は、基本的に分野ごとに行われます。

筆記試験などの試験会場については、受験票発送時に受験生本人に直接通知されます。

統合環境学特別コースの案内

グローバル COE プログラム「地球学から基礎・臨床環境学への展開」(平成21年度～平成25年度)を契機に、統合環境学特別コースが平成22年度から環境学研究科の博士後期課程に設置された。この特別コースは生命農学研究科生物圏資源学専攻にも設置され、共同で授業や研究指導を行っている。以下で、環境学研究科に入学・進学を予定されている方を対象に統合環境学特別コースについて説明する。

1. 本特別コースは、環境学研究科の博士後期課程の各専攻(履修コース)に入学または進学する者が、各自の専攻・履修コースのカリキュラムに加えて、本人の希望により選択するものである。
2. 希望者は入学志願票の所定欄に✓を記入すること。
3. 主旨は専門分野の勉強・研究だけでなく、診断的分野と治療的分野をつなぐ臨床環境学・基礎環境学に積極的に参画して視野を広げようとする学生を育てることにある。
4. 修了要件：後期課程の授業科目から、臨床環境学研修1(2単位)と基礎環境学講究1(2単位)を含む10単位以上を履修すること。学位論文に関する研究指導は必修とする。修了に必要な単位数が、通常の専攻・履修コースより多いことに注意すること。
5. 学位は、各自の所属する専攻・履修コースでの取り扱いに従って審査・授与される。
6. 本特別コースの修了者には学位とは別に修了証を発行する。
7. 統合環境学特別コースに関連した後期課程授業は次の通りである。いずれも、研究科共通科目である。
 - (ア) 臨床環境学研修1, 2(各2単位)国内のフィールドにおいて、診断と治療の双方の教員・学生から成るチームが、問題特定から解決策の策定までの実践的な研修を進める。
 - (イ) 基礎環境学講究1, 2(各2単位)臨床環境学を支える体系としての基礎環境学を構築するため、環境の描像、診断と治療の方法、及び研究・実践の理念・態度に関して教員・学生双方で発表し、共有する。